

一、玉垣 六間に一尺八寸
次の様な棟札がある。

棟札 元治元歲

侍分社家

一、裏

庄屋 周平 忠五郎

一、表

尾張國丹羽郡小口村北外坪神明社重曹月修補
申子九月吉日

天下泰平邦君安穩氏子安全祈攸
組頭 氏子惣代 庄 七平

地下惣氏子修造

大工 仙

二、表

二宮社家

弘化四年

南神主幸治郎尾張音義

尾張國丹羽郡小口村北外坪神明社重曹月修補
丁未八月廿五日

北外坪惣氏子

三、表

天保二年

尾張國丹羽郡小口村神明社重曹月補修神修補

三、裏

庄屋 伊之八
組頭 又左工門

村和惣氏子修覆

清治郎

辛卯八月十一日

境内の左側に四角に基礎石のみ残つてゐる處がある。これは大峯山大権現とて明治十九年に碑を立てられて在つたが約二十年前、神職倉地氏が神社の境内にかやうなものを祀るのは面白くないとの説によつて現在の森の南西、境内外の處に移したものである。

第十三章 宗 教

第一節 概 説

欽明天皇の十三年百濟王の特使が一度釋迦牟尼佛の金銅像を我が國につたへて以來、蘇我氏の信仰聖德太子の御尊崇は法隆寺、四天王寺の建立となつて佛教は大に傳播したのであつた。尾張の國に國分寺並に國分尼寺の建立せられたのは、聖武天皇の十二年と傳へられてゐる。

七ツ寺の開基は法相宗の行基であり、荒子の觀音寺の開基は同宗の泰澄だといふ。奈良六宗中のあるものの勢力はこの尾張平野にまで及んだらしい。

しかし常並の村人達にはこの教義は深遠であり、かつ貴族的でもあつた。尾張國の佛教が一般的となり隆盛となつたのは、その缺を補はんが爲に起つた鎌倉時代の新宗派が流布される様になつてからである。我が大口村の宗派も其の通りで臨濟宗曹洞宗眞宗浄土宗日蓮宗に限られてゐる。諸宗中で最も檀徒の多いのは臨濟宗で眞宗曹洞宗、浄土宗之に次ぎ日蓮宗は最も少い。

基督教に至つては天文十八年フランソワサビエーが切支丹宗と稱するものを鹿兒島に入つて傳へたのはじまり、織田信長の政策上による保護によつて京都に、安土に、岐阜に漸く信徒を増すに至つた。丹羽郡に於ける基督教も岐阜か

